

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

令和5年度全国学力・学習状況調査の本校の結果についてお知らせします。

<各教科の全体>

	全国	千葉県	本校
国語	67.2	67	●
算数	62.5	62	○

今年度、国語科は全国の平均正答率をやや下回りました。国語科においては選択式の平均正答率は高いです。短答式と記述式の平均正答率が低い傾向にあります。算数科は全国の平均正答率を上回りました。校内研究にて算数科の研究に取り組んでいる成果が表れていると思われます。算数科においては選択式・短答式・記述式の平均正答率が高くなっています。

本校の第6学年の児童は学習によく向き合っており努力しているため、確かな学力が身に付くよう引き続き努めて参りたいと考えます。

<各教科の詳細（学習指導要領の内容・領域）>

○…全国平均よりも上回っている。（全国平均<本校平均）

●…全国平均よりも下回っている。（全国平均>本校平均）

			全国	千葉県	本校
国 語	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方	71.2	70.4	●
		(2) 情報の扱いに関する事項	63.4	62.5	○
		(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	思考力 判断力 表現力 等	A話すこと	72.6	72.8	●
		B書くこと	26.7	24.0	●
		C読むこと	71.2	71.3	●
算 数	A数と計算		48.2	47.4	○
	B図形		64.0	64.2	○
	C測定				
	C変化と関係		70.9	70.7	○
	Dデータの活用		65.5	65.3	○

[国語]

知識及び技能(2)情報の扱いに関する事項の成績が良好です。一方で、(1)言葉の特徴や使い方、また、思考力、判断力、表現力等「A話すこと」「B書くこと」「C読むこと」については全国平均をやや下回っているため、今後、指導法を工夫改善していく必要があります。「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる」「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる」「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる」「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる」「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」の正答率が低かったため原因を分析し、改善策を考え、取り組んでいきます。

「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」の改善策としては、算数科の学習においても使い方や活用の仕方を扱うことで書き表し方を工夫する力を培える機会を設けたいと考えます。

「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる」「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる」の改善策としては、朝学習の時間において新出漢字の書き順や読み書きを学ぶ機会とし、家庭学習における漢字練習を継続して行っていくことで定着、活用する力を身に付けることができるよう努めていきます。

「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる」「文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができる」「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」の改善策としては、朝読書や読み聞かせ、国語の時間の中で多くの文章に慣れ親しむ中で文章の中心を見つける要約力、読解力、聞く力等が身に付くよう指導して参ります。

[算数]

全ての観点で成績が良好です。「A数と計算」が全国平均を一番上回りました。「B図形」については他領域と比べて上回り方が小さいので、今後の学習で力を入れていく必要があります。「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる」「台形の意味や性質について理解している」「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」「()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができる」「(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる」「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できる」の正答率がやや低かったため原因を分析し、改善策を考え、取り組んでいきます。

上記のことにつきましては、朝学習の時間に習熟したり、復習したりする機会を積極的に設けて改善していきたいと考えます。

[無回答]

今回、無回答率が全国平均より低かったのは、国語は14問中2問、算数は16問中2問でした。このことから国語科、算数科ともに無回答率が高いことが分かります。今後は、最後まで諦めずに粘り強く考え、解答する経験を積み重ねる必要があります。日々の授業において子供たちが、その姿勢を身に付けることができるよう努めて参ります。また、学習の質を上げると共に量も増やすことができるよう、読書に取り組む機会を増やしたり、楽しみながら進んで家庭学習を行ったりすることができるようにしていきます。

<児童質問紙>

児童質問紙調査の結果から今年度は、将来の夢、規範意識、奉仕の精神、協力する心などが全国平均を上回り、良好であることが分かりました。さらに、「自分にはよいところがあると思いますか」との設問に対して「あてはまる」と回答した児童の割合が県の平均以上であったことはすばらしいことです。保護者の皆様の温かな眼差しや励ましの言葉が、子供たちの心を健やかに育てています。自己有用感の子供一人一人が幸せな人生を歩んでいくために大切なものです。学校教育においても、子供たちがさまざまに活躍する場を設けるなどして、自己有用感を高めていけるようにしていきます。